

鹿児島の植物⑱ キブシ (キブシ科)

植物担当 大屋 哲

キブシは、鹿児島県内の林の縁や道路沿いでよく見かける大きさ3m位に成長する植物です。2月の下旬ごろからうすい黄色の小さな花が集まり、マメ科のフジのように垂れ下がってつきます。名前の由来は、花がフジに似ていて黄色いからとか、タンニンを多く含などと言われています。

さて、皆さんはキブシで遊んだことがありますか？今回は「キブシのずいぬき」を紹介します。



私は観察会でキブシを見つけたら必ず参加者の皆さんに遊んでもらうのですが、子どもから大人までなかなか好評です。やり方は簡単です。

①キブシを見つけたら枝を5cm ぐらいに切る

※なるべくずいの直径の大きい若い枝を選びます。

②白いずいの部分と同じぐらいの直径の棒を探す。

③その棒をずいの部分に当てて押す。

すると、ずいが木部からはがれ、すっと飛び出します。うまくいかなかったら新しい枝にかえてやってみてください。



▲キブシの枝と押し出す棒
 ださい。なかなかおもしろくてクセになりますよ。ずいぬきは他にもナンバンキブシやアジサイの仲間でもできます。



▲棒を押すとずいが…

春に先んじて咲くキブシを見つけて、是非チャレンジしてみてください。なお、くれぐれもゴミの処理をお忘れなく。

鹿児島の動物⑮ アカヒゲ (ツグミ科)

脊椎動物担当 中間 弘

アカヒゲは、男女群島および南西諸島に分布し、3亜種に分けられています。男女群島とトカラ列島・奄美諸島には亜種アカヒゲが、沖縄諸島には亜種ホントウアカヒゲが、八重山諸島にウスアカヒゲが分布します。体長は14cmほどで、スズメよりやや小さいです。

名前は、オスの容姿に由来しています。オスは、頭上から背、羽にかけての上面が橙赤色ですが、顔から胸にかけてが黒色で、まるで髭のように見えることから「赤い体で髭がある」鳥ということから名前が付けました。メスの顔から胸の部分は薄い灰色をしています。



沢沿いの、ヘゴやシダ類が生い茂った暗い広葉樹林に生息し、地上や低いところの枝をはね歩きながら昆虫類やクモなどを捕って食

べます。

繁殖期にはつがいで縄張りを持ち、オスは地上や低い枝で「ヒューヒョイヒョイヒョイ」とか「チュリーチョイチョイチョイ」と聞こえる大きな声でさえずります。樹洞や崖の窪みなどに落ち葉やコケ類を敷き詰めて、椀形の巣を作ります。繁殖数の多い十島村中之島では、人がかけた巣箱はもちろん、家の外にぶら下げたヘルメットに巣を組むことがあります。そんな時は仕方がないので、ヒナの巣立ちまでの約4週間は別のヘルメットをかぶり、無事に巣立ってくれることを応援しているそうです。

アカヒゲは学名がなかなか面白いのです。Enthacus komadori で、色彩がよく似たコマドリの学名が Enthacus akahige です。あれ？アカヒゲがコマドリで、コマドリがアカヒゲ？これは当時の研究者が学名を付けるときに標本を取り違えてしまい、逆に付けてしまったようです。いわく付きなのですね。